

# 防犯 最新線

第14話

東山区防犯パトロール隊



平日の日中でも大勢のメンバーが動いている=日生東山園集会所で



ナンバープレートに特殊なネジを取り付ける

## 地域ぐるみで監視

犯罪の2次利用が問題となる車のナンバープレート。その盗難被害を防ごうと、東山区防犯パトロール隊は5年前から取り外しが難しいネジの使用を呼び掛けている。回覧で希望者を募り、約300台分を交換した。

7月6日昼、会の代表黒須則明さん(75)は1台の作業を終えると、額の汗をぬぐった。「もう大丈夫。自治会員なら無料で交換するので皆さんにやってほしい」。

地区は昭和40年代に開発された新興住宅地。日東、日生、平子台の団地自治会で構成され、全体を東山区自治会がまとめる。パトロール活動は平成20年8月、自治会の役員経験者らによって始められた。「地域に住民が融和できる盆踊りもなく、一体化を醸成しなかった」という。

メンバーの登録数は現在125人。うち90人近くが、児童の見守りや青パト、夜間の徒歩パトロールなどの活動に携わり、声掛けに力を入れていく。四季の「安全なまちづくり県民運動」に合わせて、警察、行政との合同パトロー

ルも行う。勝目潤二さん(79)は「子どもたちとの接点があった。お互いに声を掛け合える環境は、地域の将来の安心につながる」と喜ぶ。

一方、防犯カメラも活躍している。同区はこの2年間で、市の補助制度を活用するほか、県遊技業協同組合から寄贈を受け、14台のカメラを設置。これが功を奏し、2年前に建設現場から資材を盗む男たちの一部始終をとらえた。犯罪が起こりやすい県道付近を中心に、抑止効果を生んでいる。

地域の課題は高齢化といかに向き合うか。東山の65歳以上の高齢者の割合は約34.1%と、市内町別で3番目に高い。地域で「ぶらっとホーム」の運営にも携わる角山幸弘さん(78)は「防犯と防災、健康もトータルで生活にかかわる。地域ぐるみでカバーしたい」と話す。

これまで徘徊高齢者を捜索する模擬訓練も体験した黒須さんらは、切実に語る。「孤独死はあってはいかん。防犯に絡めて皆さんで触れ合い、絆を強めないとね。自分たちのまちなんだから」(広)



### 安全安心推進大会

市内で交通安全・防犯・更生保護の各分野で活動する40超の団体が6月21日、市民会館に一堂に集まり、犯罪や事故のないまちづくりへの決意を新たにしました。大会では安全なまちづくりに貢献した4団体、

11人が表彰されました=写真。萩野幸三市長は「皆さんの地道な活動が地域の安全をリードしている。社会全体で監視の目を光らせ、安全で明るい地域を維持し続けましょう」と呼び掛けました。

